

第5章

国際共同研究案件の形成

第5章 国際共同研究案件の形成

国際共同研究や国際協力の案件形成には、我が国のリソースだけでなく相手国研究機関のニーズとのマッチングが重要であることは言うまでもない。マッチングを図るためには相手機関の研究者を知ることに加え、共同研究の内容について相手側研究者や関係者と十分に議論し合意に至ることが必要になる。その観点から、今年度は、昨年に引き続きインドネシアを訪問し、地球規模課題対応のプロジェクト案件形成を行った。また、これまでの JICA 事業の長い経験や相手国の現状をよく理解している複数研究者の知と経験をともに共同研究案件と国際協力案件を策定した。その概要を以下に表で示す。

5-1 インドネシア

1. 提案課題名	マラリア感染症制圧のイノベーション：マラリア患者由来抗マラリア薬、原虫の地域性に対応した検査キットの開発
2. 応募事業名	JST 地球規模課題対応国際科学技術協力事業
3. 研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
4. 研究代表者名	中野秀雄
5. 研究代表者所属名	名古屋大学大学院生命農学研究科
6. 国内参画機関名	名古屋大学大学院生命農学研究科、自治医科大学
7. 相手国名	インドネシア
8. 相手国研究機関名	Mataram 大学医学部、Mataram 大学動物科学部、Eijkman 分子生物学研究所、BPPT 医薬技術研究センター、Hepatika 研究所

5-2 ベトナム

1. 提案課題名	ベトナム北部に適応したベトナム国産の高収量・病虫害抵抗性品種の開発
2. 応募事業名	JST 地球規模課題対応国際科学技術協力事業
3. 研究期間	平成 22 年～平成 27 年（5 年間）
4. 研究代表者名	吉村 淳
5. 研究代表者所属名	九州大学大学院農学研究院
6. 国内参画機関名	九州大学大学院農学研究院 九州大学熱帯農学研究センター 名古屋大学生物機能開発利用研究センター
7. 相手国名	ベトナム
8. 相手国研究機関名	ハノイ農業大学

5-3 バングラデシュ

1. 提案課題名	ICT(Internet Communication Tool)を活用した BOP 底辺農民の所得工場プロジェクト
2. 応募事業名	JICA 草の根技術協力事業(パートナー型)
3. 事業期間	2010 年～2012 年（3 年間）(予定)
4. プロジェクト リーダー名	緒方一夫
5. プロジェクト リーダー所属名	九州大学熱帯農学研究センター
6. 事業応募団体	九州大学大学院システム情報科学研究院
7. 国内参画機関名	九州大学大学院システム情報科学研究院、九州大学熱帯農学研究センター
8. 相手国名	バングラデシュ
9. 相手国研究機関名	グラミン・コミュニケーションズ、BSMRAU、Win